

GAP実践による教育内容の充実

農業総合センター農業大学校

農業大学校では、生産現場における課題を取り入れた教育内容の充実に努めており、その一環として「GAPの実践」に取り組んでいます。平成29年度から農業生産工程管理学の講義を設け、平成30年度には、園芸部で茨城県GAP第三者確認制度の承認を得るとともに、農業部では国際認証GAP取得を目指したGAP対応の露地野菜実習棟を建設するなど、儲かる農業の実現に向けた学生の資質向上に取り組んでいます。

農業生産工程管理学講義の導入

平成29年度から1年生のカリキュラムとして農業部と園芸部で講義（1単位、15時間）を開始しました。講義では、基礎的な知識を学ぶ座学だけではなく、農場でのリスク評価演習や先進事例研修など幅広く知識を習得できる機会を設けています（写真1及び2）。

この講義で得られた知識は、実習におけるGAP実践に役立っています。

写真1（右）
農場でのリスク評価



写真2（左）
教室での講義



写真3 作業改善「調整時の手袋・帽子着用」

県GAP第三者確認制度の承認取得

実習では、GAPを取り入れた農場運営を学ぶ場として、より実践的な手法を学習できる環境を整えることで、作業や記録の改善を学生自らが取り組むなど、その効果を考え実行するきっかけ作りを行っています（写真3）。

講義による知識の習得、実習によるGAPの実践に取り組んだ結果、平成30年度は、園芸部が「キュウリ」で、県GAP第三者確認制度の承認を取得しました。

GAP仕様の露地野菜実習棟での実践開始

農業部露地野菜コースでは、実習棟新築工事に合わせ、飛散防止カバー付きLEDやカーテン設置による土埃対策など、GAP仕様の農産物調整室を整備し（写真4）、調整室内への注意事項の掲示や様々な記録帳簿の整備など、学生がGAPの実践を始めました。将来、卒業した学生が、AS IAGAPなどの認証取得により、儲かる農業を実現できるよう指導していきます。



写真4 露地野菜実習棟全景及び室内